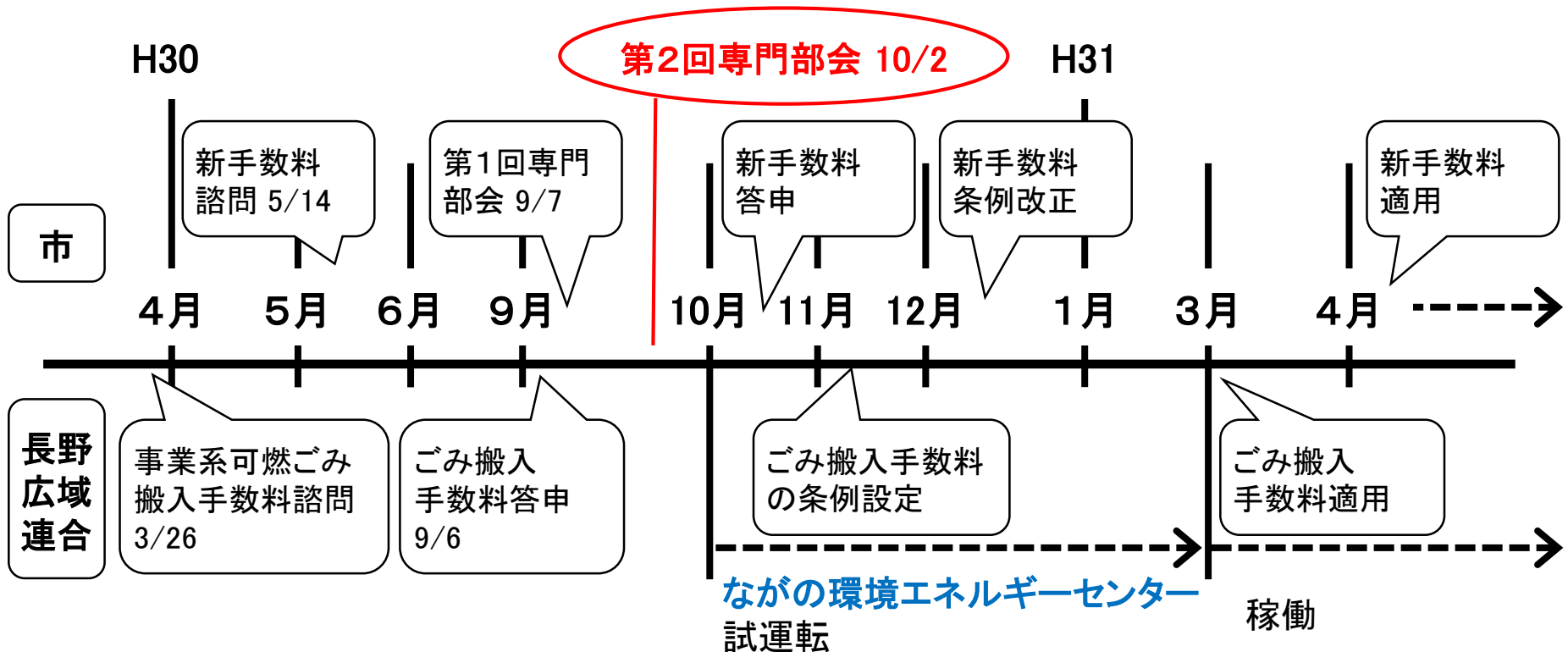


# 一般廃棄物（ごみ）処理手数料見直しに伴う 付帯意見について

## 市と長野広域連合のスケジュール



※市の処理手数料と混同しないよう、広域連合での処理に係る手数料は便宜上「搬入手数料」と表記する

# 第1回専門部会でご決定いただいた ごみ処理手数料改定案

区 分		現行手数料	改定手数料(案)	改定率	
一般廃棄物(ごみ)	1 集積所に出すごみ	可燃ごみ	1円/L	据え置き	—
		不燃ごみ	1円/L	据え置き	—
		粗大ごみシール	40円/枚	据え置き	—
		資源物	手数料無し	据え置き	—
	2 清掃センターに直接搬入するごみ	不燃ごみ	200円/10kg	170円/10kg	△15.0%
		資源物	30円/10kg	据え置き	—
	3 一時的に多量に排出されるごみ	2トン車 1台分	25,500円/回	25,800円/回	1.2%
		2トン車 1/2台分	16,000円/回	16,300円/回	1.9%
		2トン車 1/4台分	11,300円/回	11,600円/回	2.7%
	4 特定家庭用機器廃棄物	収集	4,300円/回	4,400円/回	2.3%
		搬送	1,400円/台	1,500円/台	7.1%
	5 犬、猫等の死体処理(ペット焼却)	収集・一般焼却	4,300円/件 +500円/匹	4,400円/件 +160円/10kg	2.3% —

※清掃センターに直接搬入する可燃ごみ(事業系可燃ごみ)及びペット焼却の分離焼却は廃止  
事業系可燃ごみの搬入手数料は、長野広域連合で設定する

更なるごみ減量のために、付帯意見としてご審議いただきたいこと

# ① 食品ロスの削減

# ② 手数料納付済シールの今後

●旧指定袋（可燃ごみ用と不燃ごみ用）について

旧指定袋が残っている場合は、袋の大きさに応じた手数料納付済シールを購入して袋に貼ることにより、使用することができます。

旧指定袋

手数料納付済シール  
(可燃ごみ・不燃ごみ共通)

大袋用 1枚30円

小袋用 1枚20円

販売価格=ごみ処理手数料

※手数料納付済シールは、市の許可を受けた小売店（小売許可事業者）で販売しています。

家庭用資源物・ごみの出し方保存版 手数料納付済シール抜粋

# ③ 事業系可燃ごみの減量



清掃センターでの展開検査の様子

飲食店営業者様

## 「あるを 尽くして」

### 食品ロス削減にご協力をお願いします

食品ロスとは  
「食べられず食品が廃棄されること」をいいます。日本の「食品ロス」は、年間460万トンに達しています。1人当たりで換算すると、毎日の食料費約1,000円のうち約1割を捨てています。食品には栄養価が高く、また、肥料の製造、生産にかかるエネルギー、加工・包装・運送等のエネルギーが費やされています。また、廃棄された食品にも処理するの必要なエネルギーや水などがかかります。削減された食品は、主に畜産から廃棄物として処理されるまでの過程で生じるCO<sub>2</sub>削減などの効果に繋がります。その削減効果は、平成27年度食品ロス削減目標（総量削減・肥料水質改善計画）

食品ロス削減に向けた国際的な取り組み  
平成27年9月、国連サミットにおいて、2016年から2030年までの国際目標「持続可能な開発のためのSDG目標」が採択され、「12. 持続可能な消費と生産」の目標として「2030年までに、世界の食品廃棄物を半減させ、資源効率の向上とサプライチェーンにおける廃棄物の削減を減少させる。」と掲げられています。

食品ロス削減により期待される効果  
●経費削減  
①食品ロス削減による廃棄物処理費の削減  
②食品ロス削減によるエネルギー削減  
③食品ロス削減によるCO<sub>2</sub>削減による削減  
④食品ロス削減によるCO<sub>2</sub>削減による削減  
⑤食品ロス削減によるCO<sub>2</sub>削減による削減

●環境負荷の低減  
①食品ロス削減によるCO<sub>2</sub>削減による削減  
②食品ロス削減によるCO<sub>2</sub>削減による削減  
③食品ロス削減によるCO<sub>2</sub>削減による削減

●資源の有効利用  
①食品ロス削減によるCO<sub>2</sub>削減による削減  
②食品ロス削減によるCO<sub>2</sub>削減による削減  
③食品ロス削減によるCO<sub>2</sub>削減による削減

問合せ先：長野市環境衛生課環境係（平成30年10月1日現在）  
電話026-224-5035 e-mail:kenkyu@city.nagano.lg.jp

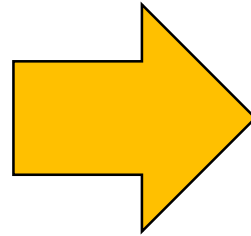
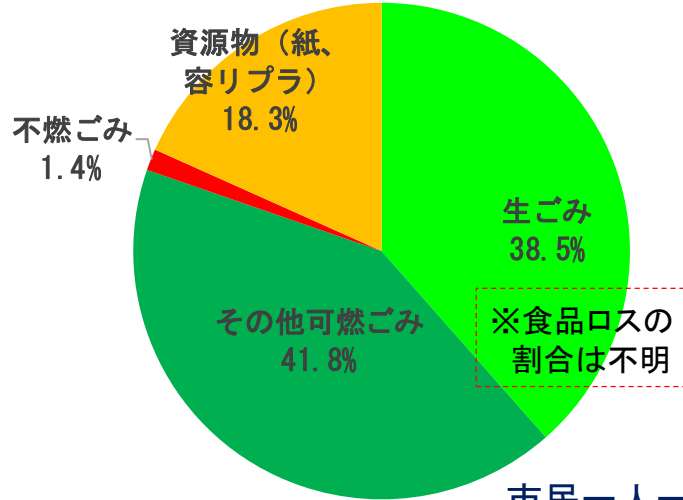
飲食店向け食品ロス削減啓発チラシ

# 家庭ごみの内容（組成調査より）

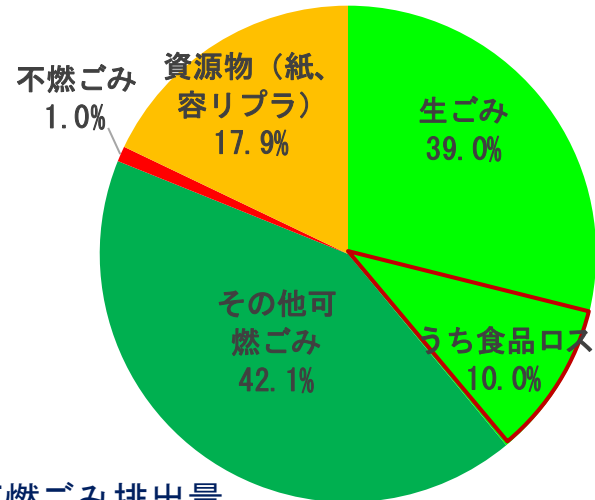
## 可燃ごみ

H26～27平均  
H28料金見直し時

※H25は前後の年度と比較し、  
異常値となっているため除外



H28～30平均  
今回の料金見直し



市民一人一日当たりの家庭系可燃ごみ排出量

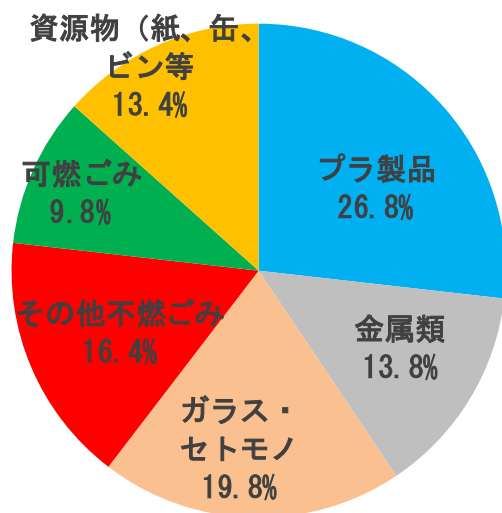
H25～27平均 391g/人・日

H28～29平均 384g/人・日

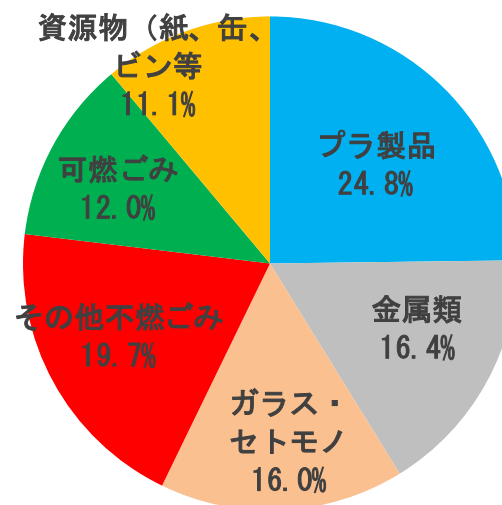
- 家庭ごみ処理手数料有料化導入以降、可燃ごみ量は着実に減少し、不燃ごみ・資源物の混入率も減少していますが、減量が難しい生ごみについては、割合が大きくなっています。
- H28年度から家庭ごみの組成調査の調査項目に加えた食品ロスは、可燃ごみ全体の10%、生ごみの1/4を占めています。
- 更なる生ごみの減量を図るためには、食品ロスの削減について、取り組む必要があると考えられます。

## 不燃ごみ

H25～27平均  
H28料金見直し時



H28～30平均  
今回の料金見直し



市民一人一日当たりの家庭系不燃ごみ排出量

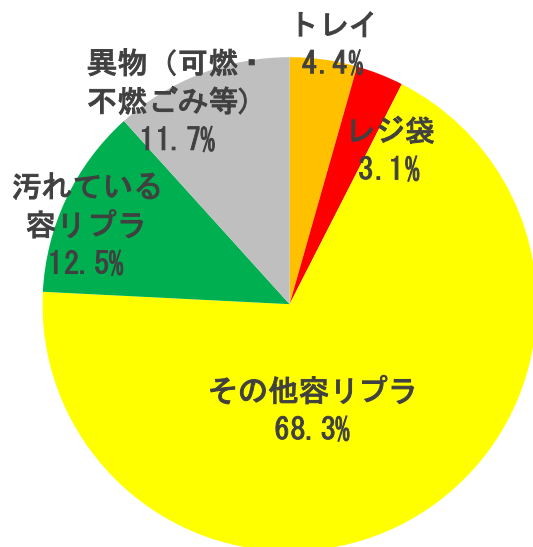
H25～27平均 36g/人・日

H28～29平均 34g/人・日

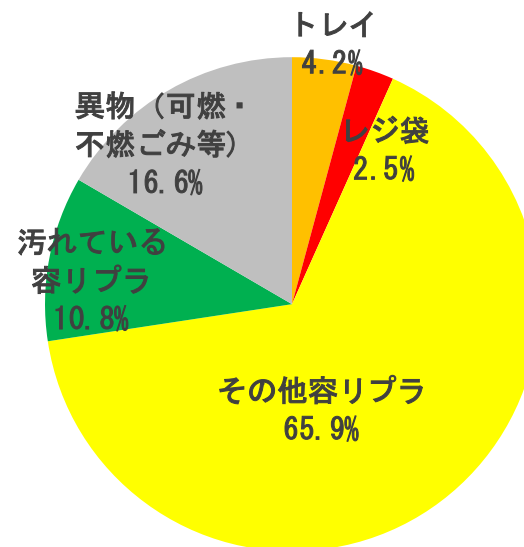
- 不燃ごみについては、組成内容に大きな変化は見られません。
- しかし、依然として可燃ごみ・資源物が混入しており、分別を徹底する必要があります。
- 特に、不燃ごみに混入する資源物の分別を徹底する必要があると考えられます。

# プラスチック製容器包装

H25～27平均  
H28料金見直し時



H28～30平均  
今回の料金見直し



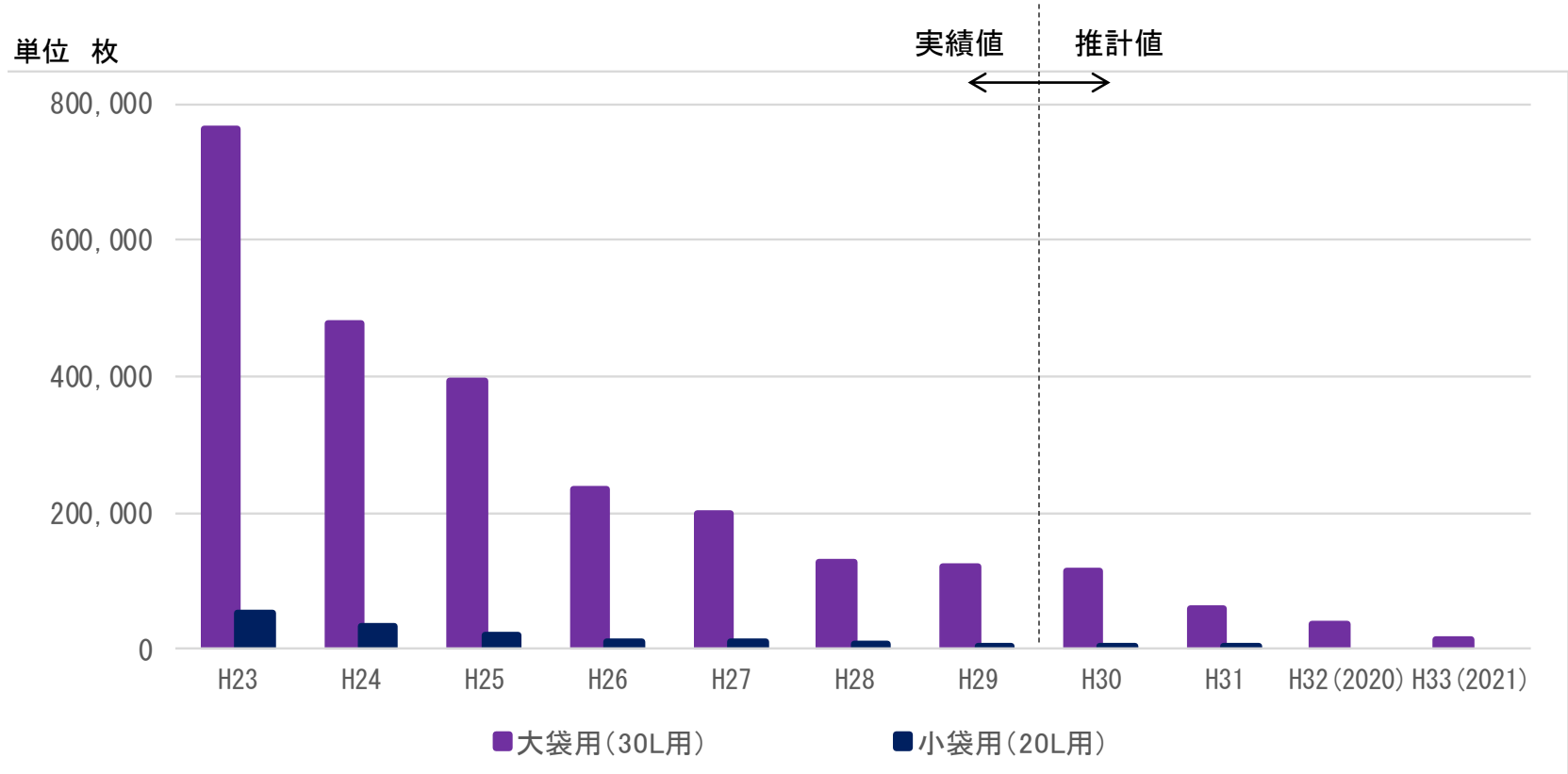
市民一人一日当たりの家庭系プラスチック製容器包装排出量

H25～27平均 26g/人・日

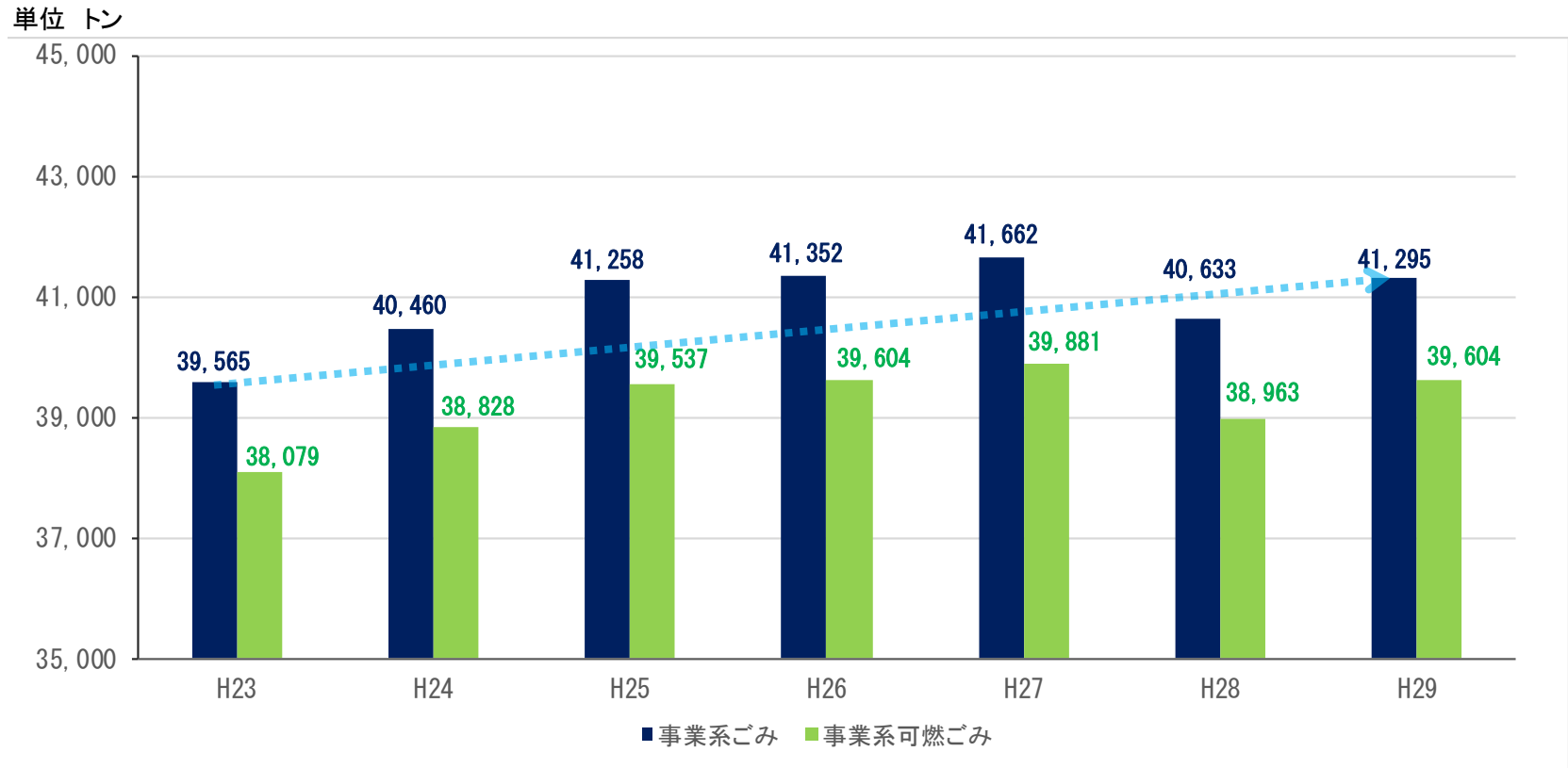
H28～29平均 25g/人・日

- レジ袋の割合は微減しており、今後も買い物へのマイバッグ持参を呼びかける必要があります。
- 汚れているプラスチック製容器包装や異物の混入率が減少していないことから、今後も適切な分別を推進する必要があると考えられます。

# 手数料納付済シールの販売の推移



- 旧指定袋は、袋の大きさに応じた手数料納付済シールを貼ることにより、指定袋として使うことができます。
- 小袋・大袋用ともに、数年のうちに販売数が減少していくことから、今後は、旧指定袋のごみ集積所への排出状況等を検証し、手数料納付済シールに関する業務の効率化を検討する必要があります。



- 事業系ごみは、近年増加傾向にあります。特に、事業系ごみの9割以上を占める事業系可燃ごみは、排出事業所に減量と分別の徹底を呼びかける必要があります。
- 平成31年3月から可燃ごみの焼却処理は、長野広域連合の「ながの環境エネルギーセンター」で処理することとなりますが、引き続き、処理施設での展開検査の実施等を通じて、ごみの減量・分別の徹底など事業者へ排出することの責任を呼びかける必要があります。



## 一般廃棄物（ごみ）処理手数料の改定について 付帯意見案

- 1 可燃ごみに含まれる食品ロスは、減量できる余地が大きくあることから、家庭ごみ・事業系ごみともに積極的に減量を推進されたい。
- 2 家庭ごみの可燃ごみ、不燃ごみ及びプラスチック製容器包装指定袋に混入する分別不適合物を減量するため、更なる分別啓発を推進されたい。
- 3 手数料納付済シールは、数年のうちに販売数が減少していくことから、旧指定袋のごみ集積所への排出状況等を検証し、業務の効率化を検討されたい。
- 4 可燃ごみの焼却処理は、平成31年3月から長野広域連合のながの環境エネルギーセンターで処理することとなる。処理主体が長野広域連合となった後も展開検査等を通じて、事業者へごみの減量・分別の徹底を図られたい。

# 今後の予定

月	市・審議会	長野広域連合
H30年5月14日	長野市廃棄物減量等推進審議会へ 市ごみ処理手数料改定について諮問、専門部 会設置	
9月6日		長野広域連合ごみ処理手数料審議会 から搬入手数料について答申
9～10月	専門部会で審議 第1回 ごみ処理手数料について 9/7 第2回 答申付帯意見について 10/2	
11月	・長野市廃棄物減量等推進審議会から 市ごみ処理手数料について答申 ・法規審査委員会	広域連合ごみ処理施設の設置条例制定に併 せて搬入手数料を設定
12月	廃棄物の処理及び清掃に関する条例改正	
H31年2月28日	清掃センター可燃ごみ搬入手数料廃止	
3月1日		広域連合ごみ処理施設稼働に併せて 搬入手数料を適用
4月1日	市ごみ処理手数料適用	